

新しい年の始まりにあたって

校長 開 聰子

新年あけましておめでとうございます。いよいよ、新しい年のスタートです。3学期は、2学期の始まりとは違う緊張感が漂っています。新しい年という大きな節目を迎えたためでしょう。

さて、年末年始、少し学校から離れた時間を過ごしますと、自分の居住する地域の様子を改めて観察する機会ができました。瑣末なことですが、こんなところに抜け道があった！とか、昔〇〇だったのに家が建っている！など・・・。ここにもまた、地域のためにご尽力くださっている方々がたくさんいらっしゃるんだろうと想像しながら歩くことができました。そして毎年、大晦日や元日に感じるのは、多くの人が休んでいる中でもしっかりとお仕事をされている方への敬意です。わたしの自宅のそばには消防署があり、昼夜を問わず出動される様子を間近で見ています。消防、救急、警察、皆さん一般的なカレンダーとは無縁です。スーパーでレジ打ちしている方、駐車場の車の整理・誘導をされている方等、お仕事柄しかたないと言えばそれまでですが、多くの人が休みの中で一生懸命働いていらっしゃることに頭が下がるとともに、かっこいいとさえ感じます。「勤勉」というのは、やっぱり素敵です。「コツコツ努力、地道な努力」は子どもたちに身に着けてほしい姿勢です。

少し話題は変わりますが、先日、1962年の実話を元にした『グリーンブック』という映画を観ました。小卒のイタリア系アメリカ人で用心棒を務める人物と、その雇い主である天才黒人ピアニストが、性格も出自も違うこともあり、ぶつかり合いながらも次第に打ち解けていくというストーリーです。当時の時代背景や差別の構造など、描かれているのは単なるヒューマンストーリーだけではなくぜひ観てほしい作品ですが、その中で用心棒が放つ「何をやるにも全力でやれ、笑うのも、食うのも、最後の晚餐と思って食べろ」という言葉は、乱暴でがさつにさえ聞こえますが、小さなことでも全力で臨む姿が感じられ、素敵に思いました。

新しい年を迎え、それぞれの学年も締めくくりをする学期となりました。一年生は後輩を迎え、二年生は学校のリーダーとなり、三年生は新しいステージへの総まとめをしていきます。勤勉にコツコツ努力し、小さなことでも大切に取り組んでいってほしいと願います。そういう積み重ねが、きっと実を結んでいくのだ信じています。今年の干支である午（うま）は、「情熱と飛躍」の象徴であるとか。しっかりと助走をつけて勢いのある一年にしていきましょう。

最後になりましたが、保護者・地域の皆さん、旧年中は多大なるご支援を賜り、厚く申し上げます。本年も、子どもたちにとって充実した学校生活になるよう、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。どうぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。